

2025 年度生態工学会 第 2 回理事会
日 時: 2025 年 10 月 29 日(火) 14:30~15:30
場所: Web 開催 (Zoom)

【総務委員会】

2025 年度総務委員会活動報告 (10 月期)

(1) 会員数・賛助会員数

会員数：2025 年 10 月 23 日現在（カッコ内は 2025 年 5 月 28 日からの増減）

終身会員 2 名 (1 名増)

正会員 320 名 (2 名減)

学生会員 87 名 (6 名増)

合計 407 名 (5 名増)

賛助会員数：5 団体 6 口（増減なし）

ダイキン工業株式会社 (2 口)、ホテイ産業研究所 (1 口)、

宇宙システム開発株式会社 (1 口)、クリムゾンインタラクティブ (1 口)

プライムデリカ株式会社 (1 口)

(2) 審議事項

- ・ 日本工学会 令和 7 年度第 2 回会長・フェロー懇談会について（

日時：令和 7 年 12 月 10 日 (水) 16:00~18:00

場所：ハイブリッド開催

（慶應義塾大学日吉キャンパス協生館 多目的教室 1 /Zoom）

⇒船田会長が zoom にて出席を予定されることとなった。

- ・ 科学技術振興機構 生態工学会年次大会論文集の著者抄録利用範囲拡大について

⇒科学技術振興機構の利用状況を確認し、編集委員会にて継続して検討し、対応方針を決定することを確認した。

- ・ 2026 年度日本農学賞受賞候補者の推薦について

⇒各理事より受賞候補者の推薦があった場合は、会長および総務委員会へ直接連絡することとなった。

- ・ 第 30 回（2025 年度）工学教育賞の推薦について（資料 4）

⇒各理事より受賞候補者の推薦があった場合は、会長および総務委員会へ直接連絡することとなった。

- ・ 第 13 期委員会名簿について

⇒事務局が作成した「第 13 期 委員会名簿（案）」に基づき、各委員会の構成について審議し、内容の確認を行った。

- ・ 学会誌の電子化について

⇒財政健全化の一環として、学会誌の冊子体発行から完全電子版への移行の是非、ならびに論文投稿料の見直しについて、引き続き、理事会にて継続審議していくことを確認した。

(3) 報告事項

- ・令和7年6月27日(金) 16:00～18:00 に開催された日本工学会主催の「令和7年度第1回 会長・フェロー懇談会」に船田会長 がオンラインで出席した。
- ・日本生物環境工学会 2025 年愛媛大会 公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0」に後援を行った。
- ・農業環境工学関連学会 2026 年度合同大会への参加を行った。
- ・日本農業工学会賞 2026 に、谷晃副会長を推薦することとした。
- ・日本農業工学会 2026 年度フェローに、桜井誠人副会長、遠藤雅人理事を推薦することとした。

以上

【編集委員会】

2025 年度編集委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」37 巻 2 号～37 巻 3 号(2025 年 4 月，7 月発刊)を発行した（内容：原著論文 3，短報 1，投稿規程など，総ページ 44）。2025 年 10 月 6 日時点で原著論文査読中 1，著者修正中 1，受理済み 0 であり，短報の査読中 0，著者修正中 0，受理済み 0 報である。

また，37 巻 3 号までを J－S T A G E 上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2025 年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第 37 巻			第 38 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	1	2		
短報		1		
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告， 訂正記事など				

以上

【企画委員会】

2025 年度企画委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2025年大会（合同開催）

日 時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月25日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表5件（13:45～15:00）、現地ポスター発表6件（17:15～19:15）を実施した。

(2) 2025年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2025年7月4日（金）～7月5日（土）

会 場：柏の葉カンファレンスセンター

参加人数：92名

特記事項：

■ 7/3 エクスカーション「千葉大学柏の葉キャンパス内植物工場施設、バイオヘルスイノベーションハブ（新研究棟）」 参加20名

■ 一般セッション口頭発表 20件、ポスターセッション 10件

■ オーガナイズドセッション 3件

「月面・火星居住を見据えた企業等の取り組み」 宇宙事業推進委員会、CELSS委員会

「次世代科学社会応援シンポジウム2025」 次世代科学社会活性化委員会

「日本を元気にするNPOの活動（その3）」 NPO法人蔵前バイオエネルギー

(3) 日本マイクロ重力ティ応用学会 第37回学術講演会 JASMAC-37（協賛）

日 時：2025年9月11日（木）～9月13日（土）

会 場：北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」を9月1日13:00-14:20に実施。

OS1-1 微小重力環境における空気再生システムの現状と課題

○戸田和宏，島明日香，桜井誠人（JAXA）

OS1-2 宇宙ステーションにおける水再生 ○今村勇氣，松本聡（栗田工業 宇宙の水プロジェクトグループ，JAXA）

OS1-3 ECLSS環境における製品・サービスのシステムデザインのための要求分析

○野中朋美，白坂成功（早大，慶應義塾大）

OS1-4 ECLSSが月圏物資輸送需要に与える影響の評価：再生システムと自立システムのシステムダイナミクスの比較 ○敷田剛志，長田泰一，大木優介，神武直彦（慶應義塾大，JAXA）

(4) 第69回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2025年11月25日（火）～11月28日（金）

会 場：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～宇宙居住と物質循環～」を実施予定

(5) 第2回生態工学オンラインシンポジウム（主催）

日 時：未 定

会 場：オンライン

テーマ：食をキーワードに資源循環や生態系、脱炭素などと絡めた内容を検討する。

特記事項：全国からの聴講が期待できるため、本年度もオンラインでの開催とする。

(6) 定例研究会

第2回定例研究会

日 時：10月24日（第2回理事会後）

タイトル: Plant-based Functional Foods: Insights from Tea Processing and Bioactivity Research

植物性機能性食品 ― 茶の加工と機能性研究からの知見

演者：宇都宮大学農学部応用生命化学科 助教

秦 葳 氏

以上

【表彰委員会】

2025 年度表彰委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 表彰式の実施

2025 年 7 月 4、5 日に柏の葉カンファレンスセンターで開催された 2025 年度年次大会にて、以下の通り表彰した。

【貢献賞】

有限会社 ホテイ産業研究所 殿

【優秀講演賞】

山田 大耀 殿

「ヤイトハタ *Epinephelus malabaricus* 用スピルリナ *Arthrospira platensis* 含有配合飼料の開発に関する基礎的研究」

エドゥ・ポーラ・アワイ 殿

「塩分濃度および葉面積指数がレタス育成用閉鎖システムの水回収におよぼす影響」

齋藤 洸太 殿

「リーフレタス栽培における局所的光照射による光利用効率の向上」

喜多 まい 殿

「維管束の再接続がトマト接ぎ木の蒸散、吸水および生育に及ぼす影響」

Chun Ho GUN 殿

「Balancing Renewable Integration and Grid Stability: Comparison Vertical and Horizontal Agrivoltaics Deployment Configurations in Japan' s Power System」

三木 慎介 殿

「微細藻類を用いたカーボンニュートラル肥料に関するビジネスモデルの提案」

任 一航 殿

「地上型および UAV LiDAR の比較による 3 次元森林構造およびパラメータ推定」

(2) 賞状および記念品の送付

2025 年次大会において各賞を受賞された方々のうち、当日受領できなかった方、ならびに優秀講演賞を受賞された方に賞状と記念品の準備を行い、送付した。

(3) 2026 年度学会賞候補者の募集

2026 年度学会賞候補者の推薦を募集しています。

締め切りは 10 月 31 日。

以上

【広報委員会】

2025 年度広報委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) SEE QUICK（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2025 年 4 月 1 日から 10 月 21 日までに 38 回（2404 号より 2441 号）情報提供を行った。

配信内容としては、学会主催のイベントの開催案内の他、関連学協会からの団体からのお知らせ、および会員からのイベント開催案内、ならびに公募情報等であった。

(2) ホームページの内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、ホームページのコンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの記載内容（第 13 期役員名簿_変更等）の改訂を行い、HP 内の内に掲載した。

以上

【国際委員会】

2025 年度国際委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 委員について

国際委員会の委員について、下記の通り変更になった。

副委員長	田村匡嗣
幹事	秦 蔵
委員	戸田和宏

(2) タイ、カセサート大学との交流について引き続き検討を行う。

来年度の年次大会にて、国際シンポジウムを行うことを検討中。

以上

【産学連携委員会・関西支部】

2025 年度産学連携委員会・関西支部活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 2025 年度上期活動報告

【大阪・関西万博開催記念合同シンポジウム】

日本生物環境工学会西日本支部との共催で大阪・関西万博開催記念合同シンポジウムを下記のとおり I-site なんばで実施した。

(1) ダイキン関連(14:30～15:30)

講演 1) 高原レストラン「水空 SUIKUU」～出展プロジェクト～

ダイキン工業株式会社 空調生産本部 主任技師 関 康一郎氏

講演 2) 人々が集う氷の木陰「氷のクールスポット」～建築設計～

株式会社ダイキンアプライドシステムズ 設計本部 グループ長 足立 奈美依氏

(2) 大阪公立大学植物工場研究センター関連(15:40～16:40)

講演 3) アクアポニックス展示「いのちの湧水（いずみ）」

～植物工場とサーキュラーエコノミー～

大阪公立大学植物工場研究センター センター長 北宅善昭氏

講演 4) ファインバブルの活用拡大 “ミライ人間洗濯機、農業活用等”

株式会社サイエンス 執行役員商品部長 前野聖志氏

(3) 関連行事のご紹介(16:40～17:00)

1) EXPO2025 バーチャル万博～空飛ぶ夢洲～

ダイキン工業 TIC 万博担当 菊池雄行氏

2) けいはんな万博 2025

関西文化学術研究都市推進機構 特命参与 小田一彦氏

(4) 意見交換会(17:15～) 南海なんば駅周辺で実施

【コメント】

- ・大阪関西万博開催に合わせた話題を取り上げたシンポジウムをタイムリーに開催出来た。
- ・現地とオンラインで約 130 名の参加申し込みをいただき、盛況のうちに終えることが出来た。

(2) 2025 年度下期活動計画案

【「食と健康」シンポジウム開催(案)】

～伝統から未来へ～

・セッション 1: 伝統と健康の融合

テーマ: 食文化と健康の関係探求

- ・ 講演 1: 食文化の多様性と重要性
 - ・ 講演者: 南教授 (立命館大学 食マネジメント学部)
 - ・ 内容: 各地の食文化の特色や歴史的背景を詳述。地域の健康にどのように食文化が影響しているかを、各地域の事例を挙げつつ説明
- ・ 講演 2: 伝統食と腸内フローラとの関係
 - ・ 講演者: 富本氏 (Noster 株式会社 研究部 グループリーダー)
 - ・ 内容: 伝統的な食文化の健康への貢献について、特に腸内フローラの役割を強調しながら、研究を用いて参加者に日常生活で活用できる知識を提供

セッション 2: イノベーションの力で食文化をアップデート

テーマ: 技術と科学がもたらす未来の食文化

- ・ 講演 3: 農水省「知の集積」取組み紹介 ・ 八朔の機能成分による熱中症対策
 - ・ 講演者: 永野氏 (TOPPAN ソーシャルイノベーションセンター)
 - ・ 内容: 八朔を活用した新しい機能性食品の開発事例を通じて、熱中症予防に関する成果を共有
- ・ 話題提供: 農水省「フードテック官民協議会」取組みのご紹介
 - ・ 講演者: ____氏 (農水省)
 - ・ 内容: フードテクノロジーの最新の応用事例とそれに関する政策について言及し、技術革新が食品産業にもたらす影響を考察

総合パネルディスカッション

- ・ テーマ: 伝統とイノベーションが織りなす新しい食の姿
- ・ 内容: 全講演者によるパネルディスカッション。伝統的な食文化と現代のフードテクノロジーの融合がどのように未来社会に貢献するかを討論

【コメント】

- ・食と健康をテーマにした取組みについては、農水省の取組みにも注視していきたい。
- ・食と健康をテーマにしたシンポジウムのシリーズを継続する一方で、既存の取組み成果の活用可否の検討を進めていきたい。



シンポジウムで
提供した話題



高原レストラン水空
話題のパビリオン・
イベント

氷のクールスポット

アクアボニックス

ミライ人間洗濯機



フランス

アメリカ

トルクメニスタン

ドローンショー

私の万博アラカルト

いのち輝く未来社会のデザイン



以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2025 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物科学会と供に、「男女共同参画学教会連絡会」に関する問題洗い出し WG 活動を行っている。2025 年 10 月 11 日の男女共同参画学教会連絡会シンポジウムに参加し、生態工学会の活動報告およびポスター発表をする予定である（10/3 現在）。世代を超えて知り合い語り合う場である NAGOMI 会（NAGOMin）も継続している。第 27 回は企業の皆様にも話題提供していただく予定である。2023 年度後半より総務委員会の協力を得て個別 zoom を利用している。なお、来年度の日本地球惑星科学連合 2026 年大会（千葉幕張メッセ・ハイブリッド）に企画委員会とともにセッションを開催予定である。今回は共同コンビナーに若手を含め、若手育成も視野に入れて開催を予定している。当委員会は、世代や性別等を区別することなく、広く互いに知り合う会として、引き続き活動していく予定である。委員会活動は、協力者を随時求めている。

以上

【CELSS 担当委員会】

2025 年度 CELSS 担当委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) JPGU :

日本地球惑星科学連合2025年大会

日 時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月25日（日）に、[H-CG25] 圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用（コンビナー：加藤浩（三重大大学）を開催。[HCG25-01] 宇宙・月面人工生命維持システムに関する気になるトピックス：中根 昌克（日本大学）、[HCG25-04] 閉鎖生態系生命維持システム（CELSS）での植物栄養塩回収：遠藤 良輔（大阪公立大学）、[HCG25-P02] 陸棲シアノバクテリア *Nostoc* sp. HK-01 の乾燥-再水和過程における遺伝子発現および Cyanophycin 代謝動態の解析：小山 隼知ほか（東京電機大学）、[HCG25-P03] *Shizosaccharomyces pombe*の胞子が有する過酷環境ストレス耐性の解析：篠田沙月ほか（東京電機大学）、[HCG25-P04] 閉鎖生態系への導入が検討されている生物の遺伝子機能解析：加藤 浩（三重大大学）、[HCG25-P05] 世代を超えて全ての年代の人が知り合い語り合える場「NAGOMin」の活動報告：加藤 浩ほか（三重大大学）、[HCG25-P06] 閉鎖居住実験の最新動向：篠原 正典（帝京科学大学）
5月26日（月）に、[A-OS14] 陸域海洋相互作用－惑星スケールの物質輸送（京都大学：山敷先生）に、招待講演として、[AOS14-07] 月極域近傍の縦孔における水の存在の可能性と月面居住：桜井誠人（JAXA）

(2) 日本生体医工学会：

日本生体医工学会第64回学術大会

日時：2025年6月6日（金）

会 場：フェニックス・プラザ（福井県福井市）

主 催：日本生体医工学会

シンポジウム テーマ：「宇宙に生きる ～宇宙環境とスマートヘルス～」

座長：高田宗樹先生（福井大学）、田中邦彦先生

特記事項：宇宙空間で生活するための問題や、その解決に向けた研究について4名のシンポジストがテーマとして、衣食住、閉鎖空間、宇宙服、放射線被ばくで発表（約15分）。

SY2-1-1-2長期有人宇宙活動を支える植物を中心とした物質循環型の閉鎖生態系生命維持システム：北宅善昭、SY2-1-1-4閉鎖居住実験(analog missions)の過去、現在、これから：篠原正典

(3) ICES 2025 - Prague -Praha, Czech Republic

54th International Conference on Environmental Systems, July 2025

- ①Kazuhiro Toda, Asuka Shima and Masato Sakurai "Study on Applicability of New Adsorbent CeO₂ to CO₂ Removal Systems Resulting in Decrease of Volume, Weight, and Power Consumption" ICES-2025-285.
- ②Asuka Shima, Yoshitsugu Sone and Masato Sakurai "Carbon Dioxide Reduction-Oxygen Production Tandem Reactor: Development of the Electrolysis Part and Full-scale Testing" ICES-2025-164.
- ③Masato Sakurai, Nao Hoshinouchi, Nao Shinohara and Junichi Haruyama "Exploration of Vertical Holes Near the Lunar Polar Regions to Confirm the Presence of Water in Underground Caves and Their Utilization" ICES-2025-295
- ④Naoko Yamazaki, Shinichi Nakasuka, Shuichi Adachi, Yasue Mitsukura, Shunta Sato and Masato Sakurai "Exergy-based Design Approach for Material Circulation System in Space Platform and its Evaluation" ICES-2025-319
- ⑤Hikono Furuichi, Yuki Ban, Motoharu Kusano, Yusuke Sakamoto, Seiji Kamiyoshi, Masato Sakurai, Shin Noguchi and Ichiro Ueno "Sloshing in a Swinging Rectangular Container: Manned Pressurized Rovers for Low Gravity Conditions" ICES-2025-280
- ⑥Motoharu Kusano, Taisei Hasumi, Akihiko Murata, Emika Fujii, Toshihiko Chiba, Yuki Ban, Hikono Furuichi, Kazuki Toma, Yuhei Yokozeki, Naoshi Suzuki, Tetsuya Tsuru and Masato Sakurai "ECLSS Lab Platform - Current Activities and Future Plans in the ECLSS Ecosystem in Japan" ICES-2025-247
- ⑦Masato Ohata, Jun Sato, Sho Tanaka, Tatsuho Sato, Ryuya Matsuoka, Hideaki Tani, Saneyuki Kawabata, Tomohiro Yokozeki, Kazuya Saito, Nao Hoshinouchi, Masato Sakurai, Yasuhiro Awata "Interior Planning for The Habitation Module to Be Installed Inside the Lunar Pit" ICES-2025-317

特記事項：例年はNASAから120名ほどの参加があるが今回は12名のみで、キャンセルが多かった。

(4) 「旅行・住まい・健康・環境技術が宇宙市場を変える：宇宙と地球をつなぐ快適 ECLSS ×ECLSS（エクルス）の挑戦とは？」（QWS アカデミアスペシャル早稲田大学）

(5) 一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点 第4回公開イベント 「低軌道利用と宇宙旅行にかかわる新産業シーズ創出」@X-NIHONBASHI（9/18）

- (6) 2025年8月10日-16日、大阪・万博2025 大阪ヘルスケアパビリオン内「ミライの食と文化ゾーン／デモキッチンエリア」にて、展示イベントテーマ：ーミライの宇宙での暮らしと食ー宇宙未来生活ラボ - 宙（そら）に生きる未来へ（Space Living Lab- Towards Life Beyond Earth）が開催された。主催は、京都大学大学院総合生存学館SIC有人宇宙学研究センターで、共催として鹿島建設（株）、DMG森精機（株）、協力団体として（一社）宙ツアーリズム推進協議会 コスモ女子 宇宙ごはん研究会に協力いただいた。まだ同時に開催した宇宙服展示においては、岐阜医療科学大学のKnight Suitsと、Amateras Space株式会社のVESTRAの展示を行い、世界初の西陣織宇宙服を披露した。また、スペースカフェにおいては、株式会社Space Shiftと、Amulapo （株）の協力を得ると同時に、宇宙産業機構による宇宙検定も実施した。
- (7) 日本マイクログラビティ応用学会の学会企画Space Festival in Muroran にて登壇(桜井)
日 時：2025年9月13日(土)
会 場：北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん
ISS：国際宇宙ステーションの生命維持技術と将来の構想
- (8) 宇宙建築学の教科書（仮）、出版社：彰国社、執筆中、東海大学、十亀先生リード
- (9) 令和 7 年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム、令和7年度で終了の予定であったが、予算は追加しないで令和8年度まで延長する。宇宙基金へつなげられるか検討中。
- (10) 日本建築学会内部で「宇宙居住小委員会」が立ち上がった。東海大学、十亀先生のリード。月極域の縦孔探査用居住モジュール、地上のアナログサイト、などの建築のデザイン検討を依頼開始した。3年後ぐらいに出来る予定。
- (11) 第二期宇宙基金では、【輸送】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術（文部科学省）のテーマが出ており、ECLSS に関する内容は 60 億円で 2 件以内

以上

【宇宙事業推進担当委員会】

2025 年度宇宙事業推進担当委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

《活動報告》

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報を SEE Quick で配信した。（第 14 回：2025/6/16、第 15 回：2025/9/8）
- (2) 2025 生態工学会年次大会（千葉大会）の一日目（2025/7/4）に以下のオーガナイズドセッションを実施した。
 - 【タイトル】月面・火星居住を見据えた企業等の取り組み
 - 【発表】
 - 将来有人宇宙活動に向けた凝縮水処理システム ○松本 千誉、今村 勇気（栗田工業）
 - 有人宇宙探査に必要な空気再生システムの要求仕様の検討 ○戸田 和宏（JAXA）、桜井 誠人（JAXA）
 - Space Station OS 構想と ECLSS システムのシミュレーション ○加藤 裕基（SpaceData Inc.）
 - 月面での完全閉鎖型物質循環システム ○岡本 有生（株式会社 IHI）、齋藤 晃央（株式会社 IHI エアロスペース）
 - 月面活動を見据えた月面施工と月面建機の検討 ○杉村 俊輔（コマツ）
 - Lunar Base Construction Case Study ○成原 一浩（大林組） 総合討論

《活動計画》

- (1) 今後の活動計画
 - ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金情報等の情報収集を行い、SEE Quick で 2～3 ヶ月に 1 回程度定期的に配信する。
 - ② CELSS 委員会と協力し、2026 年次大会において宇宙居住関連の OS の準備を進める。
 - ③ NPO 法人日本火星協会等と協力して、月・火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。
 - ④ 今後の活動の参考とするため、宇宙関連の他学会の事業推進委員会の活動内容を調査する。

以上

【循環型社会構築担当委員会】

2025 年度循環型社会構築担当委員会活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

(1) 第 3 回循環型社会構築委員会

日時：2025 年 10 月 24 日（金） 13:15～13:50

会場：オンライン会議

議事：2025 年度活動報告及び 2026 年度活動計画

(2) シンポジウム

テーマ：循環型社会構築に関する課題と展望

目的：循環型社会構築に関する研究・実践の発表と意見交換

開催予定時期：2025 年 12 月～2026 年 3 月

プログラム

「肥料資源循環の現状と今後（仮）」

千葉大学 園芸学研究院 先端園芸工学講座，宇宙園芸研究センター（兼），
環境健康フィールド科学センター（兼）教授 中野 明正 先生（予定）

「バイオエコノミーに関する日本および世界の動向」

株式会社 農林中金総合研究所 リサーチ&ソリューション 第 2 部 主席研究員 理学博士
藤島 義之 先生（予定）

パネルディスカッション

テーマ：循環型社会の実現に向けた資源循環とバイオエコノミーの融合戦略

想定されるディスカッション論点：

- ・ 循環型社会を支える肥料資源・バイオマス資源の再評価
- ・ 日本のバイオエコノミー政策と地域循環モデルの整合
- ・ 国際潮流（EU グリーンディール等）と日本の方向性
- ・ その他

以上

【各支部活動】

2025 年度各支部活動報告（10 月期）

下記のように報告がなされた。

【北海道・東北支部】

会員数の確保に向けて今後とも努力していききたいと思います。

【関東支部】

小職定年退職に伴い、次期関東支部長に関して、寺添副会長に相談を行いながら候補者にメール連絡などを始めた。

できるだけ早期に候補者からのご意見を伺い理事会に打診を進めたい。

【中部・東海支部】

12 月に農業気象学会東海・北陸支部と合同で支部会を開催する方向で検討中。

【九州・沖縄支部】

(1) 2025 年度の活動報告

- ・日本農業気象学会九州支部 2025 年大会の後援（長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門，2025 年 11 月 5-6 日）
- ・継続的な会員募集

(2) 2026 年度の事業計画

- ・他学会（近隣分野）九州支部との共同企画の検討（後援など）
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

以上